



平成 19 年 4 月 27 日

国土交通省道路局長 殿

岡部町長 井田 久義



### 中期的な計画作成にあたっての意見

「道路特定財源の見直しに関する具体策」が昨年 12 月に閣議決定され、道路特定財源を一般財源化する方針が示されたところであるが、本町のように地方の中山間地の町では地方分権や少子高齢化が進行する中、行政を取り巻く環境は大きく変化し、財政状況も非常に厳しいものとなっている現状である。

岡部町は古くから東海道の宿場町として栄え、現在も国道 1 号が東西交通の基軸となり町の産業経済発展には欠かすことのできない道路である。幸いにして岡部町内においては国道 1 号の 4 車線化が完了しているが、国土交通省において発表された「道路の走りやすさマップ」においては市町村別走りやすさで D ランクとなっており、県内では伊豆半島中央部の 3 町と本町だけである。言い換えれば国道の整備は進んでいても、より地域の生活に密着する県道、市町村道の整備が遅れていることを顕著に表したものと認識する。

静岡県そのものが走りやすさランクでは全国平均より低い状況であり、更に本町は県平均よりも低いランクであることから、町の南北交通の幹線をなす県道・町道においては継続的に整備は実施しているものの、まだまだ狭隘部分や急なカーブも多く道路整備を促進しなければならない現状である。今年の初頭にも町の北部で発生した交通事故負傷者の搬送に病院までの直線距離は 10km 程度でありながらドクターヘリが出動した事もあり、過疎・高齢化で人口減少が進む山間地では救急医療体制整備は生活の上で重要課題であり、地域においても道路が担う役割は非常に大きなものがある。

一方で町の基幹産業である農業においても、高速道路を含む幹線道路網が整備されれば産地直送便を新鮮なうちに首都圏にも配送でき、更に観光資源を活用して地域への観光客増加など新たな取組も可能となり、低迷する地域経済の活性化に繋がりを、過疎化の歯止めへと期待が持たれるところでもある。

また、東海地震が予想される中、当町のような中山間地では震災による集落の孤立、ライフラインの遮断なども予想され、住民の生命・財産を災害から守る為にも長大な法面における道路防災工事又は橋梁の落橋防止対策などは喫緊の課題であ

る。

中山間地にある自治体としては、厳しい財政状況にあっても住民生活の基盤となる道路整備は着実に進めて行かなければならない。国においては地方の現状も十分に把握した上で、道路整備に必要な財源を確保し、地域間格差の無い社会構築に全力を傾けて頂くことを節に御願います。

